

「終わりよければ」いせの会 会報46

平成24年5月19日版

電話 05966・63・5226
ファクス 05966・63・5236

5月9日(水) 例会の記録

縁(えにし)の家 19時～21時

出席者6名(男性2名、女性4名)出席でした。残念ながら、シンポの具体的な意見交換や決定をするためには、条件が整いませんでしたので、臨時の懇談会を以下の日に開催します。

5月25日(水)の臨時会で、9月へ向けての企画を、具体的に決めてゆきたいと思っています。19時～21時 縁の家

できれば、出席をお願いしたいのですが、無理としても、ご意見をメールやファクスで、お寄せください。

(下段にシンポの現状での課題を、箇条書きにておきます)

定例懇談会 6月13日(水)

19時～21時 縁の家

「胃瘻と口腔ケアを考える」シンポ案

● 9月2日(日)午後1時～4時

● 日赤1階の「やまだホール」が会場

● 「食べられなくなったら、どうしますか」の主題で市民公開講座とする

● 「日本ホスピス・在宅ケア研究会」から、5万円助成決定。

● 胃瘻のテーマに関して、選択に悩んだ当事者を複数名、発表者として考える。

● ↓関わりのある方から推薦を受ける具体的な胃瘻をめぐる悩みを論議する

● 加わっていただく病院医師とともに、市民との率直な意見交換を行う。

● 当事者に残された大切な機能回復の道が口腔ケアです。食べられない時こそ入院・在宅を結びコミュニケーション形成が大切です。山梨での取り組みを、

● 歯科衛生士の牛山京子さんに聴きます。チラシをまとめる。別紙参照

● 老年医学会が3月に発表したガイドラインが、シンポ主題と密接に関連する。

● ↓内容を検討して、参考にする必要あり。(資料・3種類) 25日お渡しできます。

● 野口先生からも報告がある予定

● ↓日本自立支援学会のシンポ「胃瘻から常食化」の内容報告

名義後援のお願いの趣旨文

伊勢市の高齢化率も25%を超え、超高齢社会はさらに進行します。最期まで自らの口でたべる事ができれば幸いです。現実には食べられなくなり、誤嚥性肺炎で発熱すると、いったんは入院という形になります。自力で食べるのが難しく自宅へ戻りにくい状況では、早期退院のため「できることは胃瘻しかない」と勧められる世情です。後になり「こんなことなら希望しなかったのに」と考えるケースも少なくありません。

当事者である本人や家族が「人工的に水分と栄養を補給する方法」の全容を知り、自らの意思に基づいた決定にしたいためには、市民と医療者が互いに考えなければいけません。食べられなくなったら、どのように相談のプロセスを進めるか、改めて考えてみようと思います。また、水分や栄養を補給する方法を考える以上に、当事者が口の中の状態を改善する事を忘れてはなりません。入院や在宅・地域で、口腔ケアを考えて行く試みを、山梨県の先例を聴きつつ、考えてゆこうとも思います。

「終わりよければ」いせの会

〒516-0805 伊勢市御園町高向927 縁えにしの家

Tel 0596-63-5226 Fax 0596-63-5236

mail homecare@amigo2.ne.jp

ホームページ <http://amigo2.ne.jp/~homecare/>